



Human Development

# 富山大学人間発達科学部後援会



## 会報

vol 01

創刊号

ごあいさつ

富山大学人間発達科学部後援会会長 虎谷 光茂

### 学生の教育やその環境整備に貢献

後援会の皆様には、ご健勝のこととお喜び申し上げます。この度、後援会発足時の会長に就任いたしました虎谷と申します。

さて、本会は多くの大学関係者のご尽力のもと、学生の教育・就職活動の支援及び学部と保護者との連携をより緊密に図るために発足いたしました。人間発達科学部が地域における教員養成・教育人材育成のための拠点校として、その責務が益々高

まるなか、本会が少しでも学生の教育やその環境整備に貢献できればと思っております。

初年度ということもあり、不備至らぬ点など多々あるかと思いますが、本後援会が今後益々充実発展するよう、微力ながら務めさせていただく所存であります。つきましては、会員皆様のご指導並びにご支援を賜りますようお願い申し上げます。



保護者の皆様へ

人間発達科学部長 大川 信行

### 後援会設立総会とその後の取り組み、学部の近況について

保護者の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、ご子息におかれましても、日々勉学に励み、将来に向けての研鑽に励んでおられますこと、ご同慶に存じます。

さて、本年4月には、保護者の皆様のご理解とご協力を得て、「人間発達科学部後援会」を設立させていただき、誠にありがとうございました。本会は、会則にもありますように、保護者の皆様と学部との連携をより強固に図ることで、人間発達科学部の教育及び学生の就職活動を支援すること目的としております。その一つの事業として、広報誌の発行があります。この場をお借りして、後援会設立総会の様子とその後の取り組み及び学部の近況についてお知らせいたします。

後援会設立総会においては、会長として虎谷さん、副会長に松倉さん、理事に笠原さん、監事に廣島さんが選出されました。役員を引き受けていただきました保護者の皆様には、改めて御礼申し上げます。また、令和元年度の事業計画案も了承され、実

施してまいりました。事業の主なものとして、教育実習関連経費、オープンキャンパス補助学生経費、学生支援セミナー関連経費、それに広報誌などに使わせていただきました。この後、教育施設の整備や学位授与式会場費などにも充てる予定であります。

次に、人間発達科学部を取り巻く近況ですが、4月に学長と理事が交代し、大学の執行部が一新されました。また、10月より教員組織と教育組織が分離して、教員は学部の枠組に縛られずに、他学部での授業も持つことが可能となりました。これにより、教員養成に関しては、他学部からの応援が期待され、特に教科専門の領域でこれまで以上の教育の活性化が図られます。さらに、大学院についても、人社会芸術系の大学院を大括りして、異なる分野の教員が協力することで、現代的課題に多角的にアプローチできる体制を検討しております。

最後になりますが、人間発達科学部では、一人でも多くの卒業生を教員として、あるいは社会に貢献できる人材として現場に立てるよう、全力で教育と学生指導に取り組んでおります。保護者の皆様におかれましては、本学部の教育活動と学生への支援活動に対しまして、引き続きご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



# 令和元年度 人間発達科学部後援会予算 収支中間報告

## 収入の部

【 4/4 ~ 12/31 まで 】

事 項		金 額 (円)
会 費	正会員	
	新入生	1,860,000
	在学生	975,000
	2年生	540,000
	3年生	205,000
収入の部 合計		3,580,000

## 支出の部

事 項	金 額 (円)	摘 要
入学時保護者説明会会場費	140,000	実施済み
教育実習等補助(実習費)	300,000	実施済み
成績通知郵送費	70,000	実施済み
オープンキャンパス補助学生への謝礼	3,000	実施済み
学生支援セミナーの就活体験談講師の学生への謝金	8,000	実施済み
教育施設整備	1,082,400	教室椅子の更新
//	74,500	教室マイク更新 (特定小電力周波数変更による)
卒業論文集の支援	150,000	
学生主体の活動集の支援	200,000	
インフルエンザ予防接種補助	240,000	
学位記授与式・祝賀会会場費	80,000	
後援会 総会案内(郵送費)	70,000	
後援会広報誌作成(年1回)	200,000	
後援会広報誌郵送(年1回)	85,000	
振込手数料	50,000	
事務用消耗品類	10,000	
会議費	3,000	
予備費	814,100	
支出の部 合計	3,580,000	

\*支出の部「事項」「金額」には今後の予定も含んでおります。

## 後援会費の援助から

富山県教育委員会との協力関係で実施される本学部の特色のある事業として、学校インターンシップ（旧学級担任論）がございます。本年度の後援会費から、以下の学校インターンシップ等で小学校等を訪れる学生に対して、インフルエンザの予防接種に対する補助を1名につき 1,000 円ずつさせていただいております。

右ページに、どのような活動内容であるかについて紹介させていただきます。

(富山大学人間発達科学部学部案内 2020、p.4から抜粋)

## 「学校インターンシップ」は、 講義と小学校でのフィールドワークをあわせもった、創造的な授業です。

4月から6月の大学での講義を通して学校教育や子どもについての基礎的知識を得たのち、6月下旬から翌年の2月下旬まで小学校でフィールドワーク（実習）を行います。この実習では、2つのコースに分かれます。**Aコースは「学びのアシスト」、Bコースは「スタディ・メイトジュニア**と呼ばれ、どちらも毎週一日程度、学校現場に身を置き、子どもたちの学びや育ちを約8ヶ月間、支援します。

**Aコース「学びのアシスト」**は、アシスタント・ティーチャーとして学級担任の補助をしながら、教師は授業や学級経営をどのように進めているのか、個々の子どもと学級をどのように育んでいるのかについて学びます。

**Bコース「スタディ・メイトジュニア」**は、学習や友達とのかかわり方につまずきを抱えている子どもをサポートしながら、子どもの視点にたった適切な支援とはどのようなものかについて学びます。

両コースともに、富山県（市町村）教育委員会と富山大学人間発達科学部との緊密な連携、協力のもと、配属された富山県内の小学校で教師の仕事を継続的に体験します。

数週間の教育実習とは異なり、数ヶ月という長期に渡って教師の学級づくりを学び、子どもたちの成長のプロセスを身近に感じ支援できることが、学級担任論の最大のメリットです。子どもたちと積極的にかかわり合いながら、教師の仕事の素晴らしさを実感してほしいと願っています。

### 参加了した学生の感想（平成29年度1年）

**A  
コース**

#### 学びのアシスト

● 最初の頃の私は、子どもたちにどのように関わればよいのか、どのような声かけをしたらよいのか分からず、戸惑ってしまうこともありました。しかし、先生方の子どもたちに対する声かけ、その中でも、子どもたちのやる気を引き出すものを間近で見ることができました。先生方の子どもとの関わり方から多くの学びを得ることができました。教員の奥深さとともに、忘れない思い出ができました。この貴重な経験を活かしていきたいと思います。

● B君はやる気をなくしてしまうことがあります、私はどんな声かけをすればいいか分からず、悩んでいました。しかし、クラスのみんなが「ここやるんだよ」「一緒にやるよ」と優しい言葉をかけたり、隣でサポートする姿がありました。そんな周りからの支援をかりて頑張っているときには、それを認めてあげるような声かけをすると、B君はもっと頑張ろうとやる気を出してくれる様子が見られました。フィールドワークを重ねるごとに、やる気をなくしてしまう場面は少なくなっていましたように感じます。支えられるB君も、支える周りの友達も、お互いが高め合ながら成長していくのだと学びました。「先生」という立場で子どもたちと接するのは初めての経験で緊張しましたが、先生方からの温かい言葉掛けや、たくさん話しかけてくれる子どもたちのおかげで、クラスに馴じむことができました。日に日に子どもたちと距離が縮まっていくことを実感し、とても嬉しかったです。また、右も左も分からぬ私にいろいろなアドバイスをくださった先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。倉垣小学校での経験を生かし、立派な教師になれるようにがんばります。

● 学びのアシストに行った際、毎回6年1組と6年2組の体育の指導補助をさせていただきました。なかでも特に印象深く残っているのは、大縄跳びの練習です。練習では、先生のアドバイスを活かしながら、本気で熱く、全力で取り組んでいる子どもたちの姿がありました。また、どちらのクラスも本当に仲が良く、子どもたち自身で改善点を見つけ、修正していく場面がたくさんありました。チームが成功すればとびきりの笑顔で共に喜びを分かち合い、失敗すれば全力で悔しさを表現する、そのような光景を見ていく中で、子どもたちの成長を日々感じることができたと思っています。この体育の指導補助をきっかけに、改めて子どもたちの頑張りや成長の素晴らしさに気づくことができました。そして、教師になれば、毎日子どもたちの笑顔や成長を見たり感じたりすることができるのだとも気づかされました。これからも夢の実現に向けて、より一層頑張っていこうと思いました。



▲学びのアシスト

**B  
コース**

#### スタディ・メイトジュニア

● 私はSMJとして子どもたちと活動する中で多くのことを学びました。大学の講義で、子どもの行動に対し、「なぜ」のような行動をとるのかを考えることが大切だと学び、実際に小学校でも意識していました。ある日、ある子が習字の練習をしている時、一枚書く度に手を汚し、その度に手を洗いに行く様子を見て、手を汚すのが好きなのかな、それとも、汚れているのが嫌なのかな、と思っていましたが、先生に尋ねると、「水が好きだから」と教えてくださいました。「なぜ」を考えつつも、本当に様々な視点から考える必要があるし、それはやはり、毎日子どもと一緒に過ごす中で、その子の様子をよく見たり、理解したりすることが必要なのだと感じました。実践を通じたからこそ、さらに学びを深められました。

## ■ 平成30年度 人間発達科学部卒業者の職種別卒業者数

		発達教育	人間環境	学部計
就職希望者	一般企業	28	45	73
	官公庁(保育士を除く)	7	10	17
	学校(教員)	幼稚園	(1)	(1)
		小学校	(17)	(8)
		中学校	(2)	(7)
		高等学校	(1)	(2)
		特別支援学校	(2)	(1)
		中高一貫校		(0)
		小計	(23)	(18)
	保育士	(10)		(10)
	学校教員+保育士 小計	33	18	51
	医療福祉(保育士を除く)	3	2	5
	自営			0
	その他			0
	就職未定者	1	2	3
	計	72	77	149
	進学	2	7	9
	その他	8	4	12
	卒表者数	82	88	170

(本学のHP公開情報より作成)

## ■ 令和元年度 富山大学人間発達科学部後援会 役員一覧

会長／虎谷 光茂（婦中整骨院長）

副会長／松倉 美華（富山市立上条小学校長）

副会長／大川 信行（学部長）

理事／ 笹原 克彦（富山市立保内小学校教頭）

理事／ 隅 敦（学部長補佐）

監査／廣島 晃（上市町立宮川小学校長）

監事／岸本 忠之（副学部長）

### — 編集後記 —

人間発達科学部後援会報の創刊号を作成いたしました。これから、保護者のみな様がお知りになりたい情報の提供をめざしてより充実した内容の編集を心がけていきたいと思います。

問い合わせ先

### 富山大学人間発達科学部後援会

〒930-8555 富山市五福 3190

TEL. 076-445-6260 FAX. 076-445-6264